

# 平成 30 年度 研究計画

## 1 研究テーマ

児童生徒が自ら考え、自ら動く授業づくり  
～目標達成を意識した思考力の育成 パート 2～

## 2 研究テーマ設定の理由

昨年度の研究では、児童生徒が自ら考えたり、判断したりする場面を設定し、形成的評価を取り入れることで、児童生徒が目標達成のためにどうすれば良いかを考えたり、目的を持って行動したりする姿を引き出すことができると考えた。目標の達成度及び授業の中での子供の姿から、児童生徒が「目標達成のためにどうすれば良いかを考えたり、目的を持って行動したりする姿」を、各場面で引き出すことができた。授業後の研究協議会では目標達成のための手立てと、形成的評価の工夫についての2点に絞って協議をすることで、課題発見・課題解決の場面設定と目標の提示や工夫、形成的評価の工夫についてまとめることができた。

思考力の育成についての評価は①目標の達成度、②授業の中での子供の姿から考察し、①について、昨年度の研究では、目標を「思考・判断・表現」に絞った。その中で昨年度より目標達成度が高かったということは「思考・判断・表現」に関する力が伸びていると言えるのではないかと考える。②について、授業の中で、目標達成のためにどうすればよいかを考えたり、目的を持って行動する姿が見られた。これらのことから、仮説は、思考力の育成に有効であったと言えるのではないかと考える。

一方で、目標設定と目標の達成度の評価の妥当性について、協議が不十分であった。また、「思考力の育成ができた」と評価することが難しいという点も課題である。小学部や重複障害学級では、指導者が児童生徒の行動から、中学部や高等部では、生徒の発言から判断するようになる。例えば、一番よく考えたところはどこか、どのように考えて行動したかを生徒に問い、思考の道筋をしっかりと表現させ、生徒自身にも考えたことを整理させることが大事である。これらの課題を踏まえ、今年度も同じテーマを設定し、更に研究を深めたい。

目標意識のもたせ方は児童生徒の実態や教科の特性によって違いがあると考えられる。それらを踏まえ、課題発見・課題解決の場면을授業に設定し、形成的評価を活用することで目標達成を意識した行動を促し、自ら考え自ら動く姿の育成を図りたい。

これらの行動を促すために「効力期待（成功のためのやり方を分かっている頑張りばできそうだという期待）」「結果期待（頑張りばできそうだ）」等が動機付けとなり、目的をめざした活動が大切である。「効力期待」はすぐにでもできる、できそうな細かなステップを設定することが大切であるため、個々の「児童生徒が自ら動く原動力」や「課題発見・解決に向けての思いの動きや活動」の実態を教師が的確に把握し、設定することが重要になる。目標を意識して達成したことが「自己効力感（やればできる）」を持たせ、更に自ら考え自ら動く姿へとつながると考える。

### 3 研究仮説

授業に、課題発見・課題解決の場面を設定するとともに、形成的評価を取り入れることで、児童生徒が目標達成のためにどうすればよいかを考えたり、目的をもって行動したりする姿を引き出すことができる。

### 4 研究方法

#### (1) 一人1回研究授業について

ア 授業実施にあたっては、単元計画の観点別評価で「思考・判断・表現」を選択している(○印がついている)授業を選択する。

イ 本時の目標に児童生徒が自ら考え、自ら動く姿(思考して行動する, 判断して行動する, 目的をもって行動する)を引き出すための目標を立てる。また、「思考・判断・表現」に係る評価規準を作成する。

ウ 授業展開に次の2点を導入する。

① 授業に課題発見・課題解決の場面を設定する。

② 形成的評価を行う場面を作り, そこまでの学習状況を把握し, 目標達成のためにどうすればよいかを考えたり, その後の学習を促したりする。

#### エ 学習評価説明シートの活用

○ 授業後に, 学習評価説明シートに学習評価, 目標達成のための手立て, 形成的評価の工夫を記入する。  
(学習評価は, 「思考・判断・表現」に係る評価指標を基に評価する。)

授業者の学習評価, 授業評価として協議会で活用する。

#### オ 研究協議会で次の2点について協議する。

○ 課題発見・課題解決の場面で, 児童生徒が思考したり判断したり, 目的を意識して行動したりしていたか。

○ 形成的評価を取り入れたことで, 児童生徒が目標を意識して行動したり課題解決が図れたりしたか。

カ 一人一回研究授業の実施期間は, 持ち上がりのクラス担任は7月末までに行う。新しいクラス担任は10月末までに行う。初任者, 3年目, 6年目, 10年目研修等で, どうしても難しい場合は, 1月末までとする。

#### (2) 校内授業研究会, 公開授業研究会について

ア 校内授業研究会, 公開授業研究会の授業も全て, 研究方法, 検証方法は一人1回研究授業と同様とする。

イ 校内授業研究会は, 全学部1回ずつ行い, 公開授業研究会は, 平成30年12月10日(月)に行う。

ウ 指導助言は, 教育センターによるチャレンジサポートの活用, 特支課から2名を2回ずつ招聘し, 校内授業研究会と公開授業研究会を行う。

エ 研究授業は午後から行い, 児童生徒が下校後, 全体で研究協議会を行う。

#### (3) 研究のまとめ

仮説が有効であったかを検証し, 研究のまとめとする。

##### 【仮説についての検証方法】

<ア> 目標達成度で評価する。(学習評価)

<イ> 評価基準を明確にした学習評価説明シートを活用し, 研究協議会を行う。

<ア>と<イ>の分析から, 仮説について検証を行う。

#### (4) その他の取組

ア学校経営計画達成目標「学習に主体的に取り組む態度の育成」の取組

<ア> 学習指導略案における授業の評価

→新しい様式で引き続き、6月、10月のデータを取り、評価を行う。学校経営計画の評価指標に合わせて、A評価の割合で評価する。

<イ> 児童生徒の変容の評価

→個別の指導計画(学習に主体的に取り組む態度)の評価を、前期評価後と後期評価後に集約し、比較する。  
学校経営計画の評価指標に合わせて、肯定的な評価(A評価)の割合で評価する。

イ 参観授業(授業を見に行こう月間)

→参観シートを使って、一人1回以上の参観をする。また、授業を見に行こう月間を、(6月、10月、1月)に設定する。

ウ 校内全体研修会

ア 研究計画周知に係る研修

イ 研究テーマに係る研修(校内講師)

エ 研究報告及び研究紀要作成

公開授業研究会の前に、平成30年度の研究報告を校内教職員に周知する。公開授業研究会では、来賓や参加者に平成30年度の研究報告をする。また、1年間の取組及び、研究成果、課題等をまとめ、研究紀要を作成する。

5 研究計画

月	研究内容	備考	
4	(23日)昨年度の研究のまとめ、今年度の研究計画周知に係る研修	講師:教育研究部	
6	授業を見に行こう月間①	一人 1回 研究 授業	
7	(3日)校内授業研究会(中学部)		講師:塚本理恵 指導主事
8	(3日)課題発見・課題解決学習		講師:塚本理恵 指導主事
9	(25日)校内授業研究会(小学部)		講師:塚本理恵 指導主事
10	(19日)校内授業研究会(高等部) 授業を見に行こう月間②		講師:松浦知佳子 指導主事
11			
12	(19日)公開授業研究会(研究成果発表等)		小学部講師:塚本理恵 指導主事 中学部講師:林 香 指導主事 高等部講師:松浦 知佳子 指導主事
1	授業を見に行こう月間③ 研究紀要作成		
2	研究紀要印刷		
3	研究紀要送付		